

○十分 後半本院再び元氣を出し、左中間に五ヤードスクラムを繰返した後、本院ホキルして五十嵐トライ。一點をリードす。

9-8

○十二分 三井奮起して直ちに左中間にトライ形勢再び逆轉す。

9-11

○十四分 有田右隅のペナルティーをプレイスにてゴールす、本院再びリード。12-11

○十七分 三井のT.B.好調にして中央にトライゴール成り12-16と離す。

○二十分 本院ればり強く壓迫し右より左のT.B.パス、實吉マークとなり左隅に飛こんでトライゴール成らず。15-16
兩軍一進一退中にタイムアップ、一點の差にて本院惜敗す。

メンバー左の如し。

- | | | | | |
|---|---------|-----|------|----|
| 院 | 川田津嵐島馬中 | 田元瀨 | 吉田松尾 | 原 |
| 本 | 瀧有米五鮫相田 | 池松百 | 實池玉西 | 榑 |
| | F.W. | | | |
| 二 | 田田野木野寺 | 田間谷 | 崎島澤上 | 海林 |
| | H.B. | | | |
| 日 | 正原狩鈴吉惠 | 瀬笠三 | 山中小井 | 東 |
| | T.B. | | | |
| | F.B. | | | |

ホツケイ部報告

對浦高戦 三對二勝(十月十八日)

浦高 2-1
本院 1-2
3

◇前半 院軍はF.W.に新人佐藤副島を置き、F.B.の津輕、有地(弟)共に病氣のため出來ず、その爲北大路(兄)をF.B.に下げて補ふ。有地(兄)は巧妙なパスはあるが、シュート大に失するため得點少く、L.W.周布は院軍の戦法として得點に到る機少く、只北大路弟の活躍を期待するのみだつた。十分先づ浦高最初の一點を擧ぐ。十五分L.I.北大路(弟)一點を取り返へし同點とす。其の後一進一退互に機なく前半を終る。

(浦1-1學)

◇後半 十分北大路(弟)F.B.よりの強打を受けてゴール直前でアツシユして一點を増す。二十分北大路(弟)の突込み功を奏し、又も一點を増し浦高二十六分一點を取りもどすも、遂に院軍一點をリードしてタイムアップ。プミなる。

(浦1-2學)

院軍のメンバー左の如し。

- | | | | | |
|------|-------|------|------|------|
| (兄) | 路藤布 | 村田原 | 路村 | 谷 |
| (兄) | 島地大 | 植山小 | 北中 | 濞 |
| (弟) | 副有北佐周 | 植山小 | 北中 | 濞 |
| R.W. | R.I. | F.C. | L.I. | L.W. |
| R.H. | C.H. | L.H. | R.B. | L.B. |
| G.K. | | | | |

對立教大學 敗 (十一月十二日)

立大 3-2
本院 5-0

◇前半 五分立教一點を入れ、八分L.W.周布一點を返す。十分立教一點を加へるも、北大路(兄)これに報ひ、2對2とす。十六分立教又も一點を加へ、一點リードされ、其の後一進一退にして前半終る。

◇後半 連續五點を入れられ後半F.W.取りもどす元氣なく終る。後半殊にバックメンの不備を暴露したと言へる。今日の試合に於ての第一の敗因は院軍の意氣の足らなかつたことである。勝てると思ふ試合によく負けることがある。今後注意しなければならぬ。

メンバー左の如し。

本院		立大	
島地路布 (兄)	村田原	瀨田澤本	一浮深宮沼
副有北大	植山小笠	橋部部	高黒神
周	有中	屋川	土笹倉
R.W. I.C.I.W	R.H. C.H.L.H.	R.B. L.B.	G.K.
R.F. L.L.W	R.C.H.L.H.	R.L.B.	
L.L.W		G.K.	

對商大豫科戰 勝(十一月十四日)

商	豫	1	0
1	1	5	6
		本院	

◇前半三十秒、北大路(兄)、五分有地(兄)、十一分北大路(弟)、十六分北大路(弟)二十八分北大路(兄)のシュートに五點を入れた敵シュートあるも名G.K.澁谷と相俟つて山田植村よく奮闘して前半遂に敵にゴールを許さず。(商0-5學)

◇後半 F.W.後半もう大丈夫と思つたが、二十五分迄一點も入れず。二十五分商豫L.I.のシュート澁谷の耳を採めてゴールイン。院軍のF.W.平和の夢を破られ奮發一番一點をこり返へして、タイムアップとなる。(商1-1學)

本院		商	
島地路布 (兄)	村田原	内中池内下	山田吉倉宮
副有北大	植山小笠	島智正	大武遠
北大	川村	藤井	佐新
周	谷	林	
R.W. I.C.I.W	R.H. C.H.L.H.	R.B. L.B.	G.K.
R.F. L.L.W	R.C.H.L.H.	R.L.B.	
L.L.W		G.K.	

對帝大戦 敗(十一月十五日)

帝	大	4	1
3	2	1	3
		本院	

◇前半 兩校共軽い氣持の練習試合だった。院軍が前半一對一で喰ひ止めたのはH.C.植村の奮闘を物語つて居り、其の後で密に計を廻らすG.K.澁谷の考功さがあるのである。F.W.は北大路(兄)よく新人を率いて、一點を入れるさすがに老練な彼である。

◇後半 メンバーを變へて戦ふも、帝大和田松本兩氏を出し、積極的戦法を取り院軍を困らす。後半3對2で敗れたが而し上出来だったと思はれる。(帝3-2學)

本院		於明大球場	
島藤路島松 (弟)	原村澤	明大10	3
副佐北大	越村	7	1
副久	谷	0	1
R.W. I.C.I.W	R.H. C.H.L.H.	本院	
R.F. L.L.W	R.C.H.L.H.		
L.L.W	R.B. L.B.		
	G.K.		

對明治大學戦 敗(十一月二十一日)

◇前半 強豪明大が我々の如き弱いチームと試合をして下さるさいふので勇躍して明大球場に行つたのである。やつて見るこ矢張り強い。而し前半3對1で喰ひとめたのは明大の遠慮もあるこさながらH.B.の山田、今城とF.B.の有地の働きがあつたからだらう。(明3-1學)

◇後半 連続の明大のシュートを名G.K.澁谷よく止むるもスピードある突込みには詮方なく續いてゴールインとなる。明大にあれだけシュートをさしたのにはL.B.中村の無氣力を暴露したものである。もう少しタツクルを考へるべきだ。後半7對1で敗れる。(明7-1學)

當日のメンバー左の如し。

島大路路布	村田城	地村	谷
副有北大	植山今	有中	濹
R. W. I. C. I. W	R. H. C. H. L. H.	R. B. L. B.	G. K.
R. R. F. L. L. W			

對早大戦(一對十)大勝 十一月廿六日

早大 1
 0 | 1
 6 | 4
 10 本院

◇前半 院軍ベスト、メンバーを以て、此の日早大新人を迎へた。前半好調にて、敵軍を壓し、三分北大路(兄)左翼よりのパスをよく止め、單身サークルに突入し、最初の一撃を獲得。是に勢を得た院軍は約五分置に、北大路兄弟、有地(兄)得点をなし、而して残念乍らG.K.のミスにより敵に一點を許す。(1對4)

◇後半 日頃の猛練習により、院軍少しの亂調子を見せず、北大路兄弟及び、破天荒にもC.H.山田が得点なし、遂に十對一にて院軍快勝す。(0對6)メンバー左の如し。

副大路路藤	村田城	地村	谷
島有北大	植山今	有中	濹
R. W. I. C. I. W	R. H. C. H. L. H.	R. B. L. B.	G. K.
R. R. F. L. L. W			

對日體戦(〇對四)勝 十一月二十八日

日體 0
 0 | 0
 2 | 2
 4 本院

◇前半 此の日我軍は、中等科のメンバーを以て敵軍に當る。而して我が中等科の部員六名にして如何に是を解決せんぞ獨り頭を惱して居た所、幸にも相馬君を始めとし百瀬、松本、田、平田の諸兄の御援助を蒙り此所におぼつかない乍ら中等科のメンバーの出來た事は幹事として非常に喜ばしい事である。當日は日體の人の都合上一時半の豫定が三時に伸び、あまつさへ雨降りも来て居たが、院軍は少しのだけ氣味もなく、殊にエキストラ諸君の奮闘は案に相違して目ざましく、飛沫をあげ乍ら、よく攻め且防ぎ、殊にL.H.の田君等は普斷の訓練宜しきか否か? 五寸以上も、たまりたる水の中

で敵ミ球の取合は、傍から見るに少しナンセンスであるけれども、其の勇氣は嘉すべきであつた。又當日はホワワードのパスが全然不可能なるにより單身敵軍に躍り込む事數回遂に二點を獲得し終る。

◇後半 雨益々激しく、加ふる寒氣甚だしくも、院軍是等に屈せず、能く戦ふ。エキストラ相馬君は北大路と共に、敵のゴールに近づきたれども、餘りの寒さに手の感じ鈍り、シュートもゴールをはずれる事數度。併しそれにも屈せず相馬君一點を獲得、續いて北大路も一點、此所に敵を零敗のみにたゞきつけた。それは何の爲か、云はずもがな平田、松本兩君の防禦能く、敵の鋭鋒を未然に退け、而してハーフ諸兄のればりづよき壓力に依るものも信する。終りにエキストラ諸兄の御奮闘を謝す。

メンバー左の如し。

瀨兄路馬島	城村	地本	田
百有北大	今植	有松	平
R. W. I. C. I. W	R. H. C. H. L. H.	R. B. L. B.	G. K.
R. R. F. L. L. W			

對橫商戰(五對三)敗 十二月五日

橫商 15

2	3
2	1
3 本院	

◇前半 交渉の行違に依り色々混雜を呈したが、結局戸山學校にて行はるゝ事となつた此の日の院軍は、中等科で決行しよと思つてゐたが、北大路を始め、今城等が病氣故止むなく、高等科の人達に助を借りて舉行す。前半院軍のホワワード亂れ、敵に押し通して終る。

◇後半 院軍北大路(兄)ホワワードの志氣を統率し、又少年有地よく是を援けて、あやしげ乍ら一點を加ふ。是に元氣付けられた院軍は、よく防ぐ事十數回、殊に最少年大木の活躍が衆目引いた。今日の調子で行くならば自他共に許す名ハーフ・センターの定評ある山田をも凌ぐ腕前なる事は必定だらう。益々練習されむ事を望む。

此處に於て一進一退の白熱戦が開かれ、遂に敵には二點を許したれども、院軍も北大路(兄)の一點を加へて遂に五對三にて惜敗す。此の日、若し北大路(弟)及び今城が出場し得たならば、必ず勝つ事が出来た事と

信する。

メンバー左の如し。

(兄)	島地路	藤布	村田木	地島	谷
(兄)	副有北	大佐周	植山大	有副	造
R.W.I.	C.I.W	R.H.C.	H.L.H.	R.B.L.	B.L.B.
R.R.F.	L.L.W	R.C.H.	C.L.H.	R.L.B.	L.B.L.
					G.K.

對慶商工(十一對三)大敗十二月二十日

慶商 11

4	7
2	1
3 本院	

◇前半 昭和四年三月、今の高二の人々に依つてなされた慶商戦は、七對一の大敗となつて涙を飲んだのだ。是に奮起した我中等科は、エキストラ二君に援助を乞ふて、決行する事となつた。前半、院軍先づ北大路のプッシュにて、二分、最初の一點を得。之に勇氣付けられたが、敵軍は破竹の勢を以て院軍を壓し續けて七點を獲得された。

◇後半 前半七對一の惨敗に院軍は些か亂れた氣味もあつたが、よくホワワード連絡を整へ北大路單身ドリブルして一點を加へしも、敵、前半の意氣物凄く、バツク平田、小笠原の細い防禦を破つて二點を續けざま

に得。併し院軍は最後迄堂々戦へば、それで敗れてもよいと云ふ考へで、よく戦つたが、何しろ敵は關東一の腕前何でふ、かなうべきか遂に十一對三の大敗を期した。

メンバー左の如し。

島地路	木副	尻村城	町原	田
副有北	大	町植今	室小	笠平
R.W.I.	C.I.W	R.H.C.	H.L.H.	R.B.L.
R.R.F.	L.L.W	R.C.H.	C.L.H.	R.L.B.
				G.K.

(北大路記)

對ミカド戦(2對4)勝十一月二十九日

ミカド 2

1	1
1	1
4 本院	

◇前半 院軍は大木、室町の新顔を交へ、とつあんチーム、ミカド軍を迎へた。前半先づ院軍調子よく、押し氣味であつたが、老巧なる敵軍は、よく之を防ぎしも力及ばず、北大路(弟)最初の一點を得。而して二十三分ミカド、レフトより攻めC.F.一點を獲得す。

◇後半 院軍益々好調にて北大路兄弟及有地三點を得、敵には一點のみ與へたに過ぎずして勝を制す。

メンバー左の如し。

島大路路町	木田村	藤地	谷
副有北大	大山植	佐有	澁
R.W.I.C.I.W	R.H.C.H.L.H.	R.B.L.B.	G.K.
R.R.F.L.L.W			

對本院OB戦(五對六)勝十一月廿九日

O	B	5	1	4
4	—	—	—	4
				6

本院

◇前半 此戦は、例年行ふものとして本院に取つては、非常に有意義なものである。而るに、本日遠山先生の御出場を仰ぐ事の出来なかつた事は、非常に残念な事である。前半、院軍よく連絡取れたが、敵もさるもの、よく是を防ぎ先づ一點を得。併し是にて挫ける院軍では無く忽ち北大路兄弟、有地により四點を得て終る。

◇後半 何を作戦したのか敵軍、直ちに二點を得是に依つて院軍少し亂れたるも副島の鋭きシュートよく効力を奏し、一點を加へ五對三となつたが、敵も是に對し、又もや二點を加へ、同點となり、遂に一大熱戦となつたが、北大路(弟)危しげ乍ら一點を得

六對五で辛勝す。

メンバー左の如し。

島大路路布	村田城	地松	谷
副有北大	植山今	有久	澁
R.W.I.C.I.W	R.H.C.H.L.H.	R.B.L.B.	G.K.
R.R.F.L.L.W			

對立大戦(五對四)惜敗 十二月三日

立	大	5	4	4
1	—	—	—	4
				4

本院

◇前半 十一月十二日の戦に、見事敗られたる本院は、此度の戦は如何にもして、勝たざるを得なかつた。三時ブリオフの笛にて試合は開始された前半幾分押され氣味ながらもよく防ぐ、且攻め四對四の無勝負であつた。

◇後半 後半は兩軍とも一點を先に取つた方が、勝を制するものとしてか、よく戦ひしもバックには始めての有地(兄)を置いた爲か、遂に一點を先取され惜敗す。

メンバー左の如し。

島藤路路布	地田村	地村	谷
副有北大	有山植	有中	澁
R.W.I.C.I.W	R.H.C.H.L.H.	R.B.L.B.	G.K.
R.R.F.L.L.W			

全國高等學校ホツケイ大會

十二月二十八日より四日間今年は東京で行はれた参加校は南は臺灣、北は北海道より参加しそれに京都の三高、關東の成城、浦和高校も本院であつた。第一回の時本院参加するも優勝校三高に準決勝で涙をのむ。去年は京都迄ゆく自信なく中止した今年は第三回目である。

本院は幸に不戦一勝となり、準決勝で優勝候補成城とあつたのである。成城はホツケイ協會でAクラスの肩書きを持つ仇敵なのであつた。幸に成城に勝ち、決勝で臺北高校を破り優勝したのである。

對成城戦(勝) 十二月三十日

高校大會準決勝(察判武井、高月兩氏)

成	城	4	2	2
2	—	—	—	3
				5

本院

フルバックの津輕、有地(弟)共に大病にかかり、此の大會に出場し得なくなつたのは院軍にまつて非常に打撃であつて、優勝等さは考へる餘地さへなかつたのである。それがために我々の望も小さく只年來の仇敵成城に勝てば良いと言ふ考へを皆持つてゐたのである而し相手の成城は關東高校リーグで一度も勝つたことのない仇敵で院軍の戦法をよく知つてゐるので、相當心配した。策戦も念に念を入れて考へた。

◇前半 先づブリで負けるも策戦通り植村出てタックルし、F.W.に球を送る。F.W.得意の短パスミドリプルで敵陣に攻め入れども、F.W.連絡なく、チャンス逸し、反對に猛烈な攻撃を受け、危く見えたが、なか／＼粘りかくて十二分、R.B.周布の強打をW.受けて、敵のサークル内に入り、L.I.北大路(弟)右側からシュートして、最初の一點を擧ぐ。其の後成城一點を取返さんとする意氣もの凄く、院軍非常な苦戦に陥り、敵のシュートに膽を冷やすこと數回、G.K.澁谷實力のあらん限りを出して敵にゴールを許さず。敵に數回のシュートの機を與へたのはバックに責があるかといふさ、そうではなく、バック

クが青木、金井をマークするためにR.I.F.C.等のシュートを許したからである。院軍は澁谷が充分R.I.F.C.のシュートなら止めると言ふ信頼を持てたからで、實際背水の陣そのものだつたのである。斯くて成城愈々猛烈さを加へて行く。暫くサークル内外の戦鬪を續けてゐる中に、成城のシュートゴールをすれ／＼に入りて成城一點奪還の功を奏したのである。其の後も成城壓倒を續ける中今城のE.W.マークミ山田と周布の金井マークは敵の攻撃を抑へるに充分であつた上に、植村が好ボチジョンを保持し、球に釣られずよくふみ止まつた、ために敵はR.I.F.C.を主力として戦はなければならなかつた。そのために、敵のF.W.の鋭さは減じたが、成城のH.B.は只有地のみの妨害を受けてゐただけなので、成城はH.B.の力によつて院軍を壓倒してゐたのだ。而しこの壓倒が院軍のF.W.得點の最良の條件なのだ。斯くて院軍壓倒されながらもゴールを許さず、時來りて周布の強打にF.W.敵のH.B.のもごらぬ中に敵陣に到りF.C.北大路(兄)のシュートG.K.の右を抜きてゴールインとなる。院軍のF.W.は特徴を愈々發揮しだした。成城は成城で相變らず我が

陣地をおびやかしてゐる。その後に成城のシュート又もゴールにすれすれに入り2對2となる。三十四分L.I.北大路(弟)單身突入得意の一手でG.K.直前G.K.の右をブツシュで突きて一點を加へ、ハイフタイムとなる。

(成2-3學)

◇後半 五分の休みに疲勞を回復した兩軍の試合は時々刻々白熱化してゆく。一點を取りもごそうとする成城は成城獨特の荒らさを出し始めた。一點リリドしてゐる院軍には落ち着きがあつたが、俄然十二分敵の猛烈なる攻撃を受けて鬪將金井のためにもろくも一點を取り返へされた時、院軍俄に落ちつきを失ひだした。成城は三對三になつたため元氣をさりもしし好調子を以て我がサークル内に殺到す。而し嚴重な我がH.B.のマークと相俟つて、G.K.澁谷の奮闘はよく危機から救ふ。こゝで成城が一點を入れたら先づ成城の勝となるのが普通である。所でR.B.周布の強打は又もチャンスを作りL.I.北大路(弟)一點を加へたが間もなく成城も一點を入れ、四對四となる、こんな大接戦は未だかつてない。見物人は面白いかも知れないがやつてゐる選手のつらさ實に精神上の

苦痛の上もないさへ思はれた。試合も後十分で終る。このまゝ四對四なら延長戦になる。精神的に苦しめられ、肉體的に苦しめられ、延長戦なんかやつたら、この世さお別れになるかも知れないさへ思はれた。まして負けたらごの面下げて應援の人に會へようか。後八分の時P.C.を得て失敗しL.C.なる。打つ副島、止める北大路(兄)その球を打つ、北大路(弟)、突込む有地、佐藤こゝで一點入れればならぬ決心、「神よ願くば我をして我の義務を果させ給へ」さ、那須の與一の決心で、各々ポジションにつく。副島先づ好追球を出して義務を果し、北大路(兄)それを程よく止めて義務を果し、北大路(弟)好シュートをして義務を果し、敵のK.止むるを有地突込みてゴールイン。斯くて皆義務を果す。このうれしさ。成城こゝでがっかりして了ひそうなのに、又も一點取り返へさんご攻めより、正にシュートせんごするせつなタイムアップの笛は鳴った。この時の皆の喜びは臺北を破つて優勝した時とは段違ひに、大きいものであつた。

斯くて準決勝に仇敵成城を實に辛勝の中の辛

勝で破つて優勝戦に出る資格を得たのである
此の日のメンバーは臺北のさきと同じである
から省く。

對臺北高校戦(勝) 十二月三十一日

全國高校大會決勝戦

臺北高校2

1	1	0
1	3	3
		本院

愈々決勝戦だ。昨日成城を打破つた吾々は其の疲れも何所へやら意氣さ元氣で臺北にぶつかつた。臺北は去年の優勝校たる北大豫科を破り榮冠を吾物顔に野心満々として出場したのであらう。此の日本郷の帝大グラウンドに於て舉行され、其のコンディツション比較的よく、優勝ちであつた爲幾分寒いのは吾々にまつて或は有利であつたのかも知れない。事實吾々にまつては餘り勝つ自信もなかつたのだが、榮冠が吾々の直ぐ手のさやく所にあると思ふさ又負けられぬ試合だ。愈々一時半より高月武井兩氏察判の下に試合は開始された

◇前半 先づ緊張のブリに忽ち混戦となり其の中に球は流れてL.I.北大路(弟)に渡り得意のドリブル、然し残念なこゝには少し固くなつたのさ敵のR.B.の好防にはさまれてチャ

ンスさならなかつた、其の球は敵に渡り猛烈に攻めよせたが、今城のマーク完全なるに由つて危く難をまぬかれるを得た。敵の策戦を知つた院軍はよく其の弱點を捉へ、北大路兄弟の短バスの屢々敵陣近く接つたがものならず、植村よく之を助けて球を返すも敵之に負けずロングショットを度々出したのはH.B.の脅威であつた。此の如く二十分の間互にバツクの奮闘に一回のシュートもなく互にあせるばかりだ、然し二十五分敵R.B.の強バスの得てL.I.より大きく割つて出で遂にレフトコーナーに其のシュートを老巧な澁谷もさすがに止め得ず一點を許してしまつた。二十五分間吾々一點のゴールも許さずに頑張つた事から推して吾々に勝てる相手だと思ひ出したのは吾一人のみではないだらう。此所に元氣を得て吾々一同猛烈な攻撃を加へたが、一點も返し得ざる内にハーフタイム。

◇後半 一切れのレモンに元氣を、又幾多の應援者に力を得た院軍は非常に調子が出て來た。其れにかへ、臺北軍は昨日の疲れが出たか、或は一點に満足したか、院軍の總攻撃に堪へかれ遂に北大路(兄)のシュート

きまつて一點を奪還した。敵は之に驚き猛烈に逆襲しようとしたが、R.H.植村並びにR.B.周布の奮闘其に加ふるに澁谷の好防に絶好のチャンスを得なかつた。其の後院軍は周布、山田、副島と球渡りR.W.副島のパスF.C.北大路(兄)之を受け右に入つてシュートするも敵ゴールよく止めたが、佐藤の突込み功を奏して珍しくも一點、リード敵さすがにあはて二十分一點遂に同點、接戦又接戦併し二十五分北大路(弟)周布の球を得て單身突入此所に得意の一點を入れきまりなる。其の後は攻めつ攻められつ到々タイムアップ。何にも何だか解らない感情さは恐らく此の時の様なことであらう。

斯くして吾々一同の普段の練習のかひあつて輝く月桂冠は吾等の手へ、吾等修練の日未だ淺くして此所に優勝を見るには！然し吾々は此の様なきみに満足して其の修練を怠ることは學生の本分としてやるべきことではないと信じ、今よりも一層體力を煉ることは固く約束する次第である。

附記 此の戦によつて本院の北大路成城の金井等と並び稱せられ、高校の最高水準に擧げられたことは吾々一同殊更意を強うする。

其の他澁谷、周布、植村諸兄も昨日に勝ることも劣らず、又我々の優勝の一因となつた事に對しても感謝の意を表したい。
メンバー左の如し。

F.W.	{	副有	島地
		北大	路路
H.B.	{	植山	村田
		今	城
F.B.	{	周	布
		植	村
G.K.	{	澁	谷